

令和2年度重点目標の評価

令和2年度 重点目標①	ひととき預かりのさらなる定着と拠点併設型一時預かり事業への取組みの実践
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ひととき預かりの成果や課題を踏まえ、拠点併設型一時預かり事業の意義を明確にして、事業の拡充や活動基盤を確保するため、関係局へ提案をすすめる。 ○需要を予測しながら広報を拡大し、効果検証をすすめる。 ○子育てサポートの利用申し込みからスタートしていた窓口を横浜子育てパートナーも受付対応をしているようにすることで、初期相談の対応強化や拠点内の他機能（ひろば、相談）やその他の関係機関との連携を強固にしていく。 ○利用時間を原則2時間から延長を図ることでより柔軟な対応を目指す。 ○一時預かり的な機能の中に子どもの育ち、成長発達にどう好影響があったかを親側と共感共有できる仕組みを考える。
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ●預かりニーズへの対応が前年度比約1.5倍の増加となった。 ●当日預かりの需要も増え、柔軟な預かりを実現できた。また利用者アンケート結果からも認知度は97%と高まり、その周知に努めた。 ●預かる側のひろばサポーターたちの力量も高まり、親との信頼関係と子どもの成長発達の理解の上で預かりに移行できる仕組みが定着し、家庭側への安心に寄与した ●拠点併設型一時預かり事業については、実現可能な仕組みを区と拠点で検討のうえ、関係局に提案をすすめた。 令和3年6月からの一時預かり事業開始への目途が立った。 ●他区からの問い合わせや関心時も高く、拠点多機能型への推進、普及に努めた。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●2時間単位での預かり時間が柔軟性がないこと ●午前午後2コマずつの預かり枠で受付に断ることがあること ●多胎児預かりに料金的な配慮がないこと

令和2年度 重点目標②	妊娠期から産後4か月までの切れ目ない包括支援体制の構築を、区内のより多様な資源と協力し、地域展開することで、親子にとって身近な場所での確かな支援がタイムリーに受けられるよう、協働で実施する
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○生後2～4ヶ月を対象にした3回連続プログラム（最終回は仲間づくりとして貸館での交流時間）「あっぷっぷ」の区内公立保育園3園での開催を拡充。 ○3年前から実施してきている民間保育園との連携事業「ちょこっと育児体験」を3園と年間9回開催し、その効果検証をしながら地区ごとのネットワークを活かして次年度には増やしていけるよう働きかける。 ○今後上記のプログラムの地域展開については、運営側の支援関係者を人材育成し、機関を回遊できる協力者を増やしていくことも検討する。
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急事態宣言下となりプログラムは延期、中止されたが、その後、9月から徐々に開始。再開当初は自粛する方も多く、予約者半分がキャンセルしていたが秋からはほぼ定員を満たす形で継続。自粛の方にはオンラインの開催を試みて会場と繋ぎながら試行した。 ●入念な話しあいの中で進めてきた公立保育園との連携プログラムの開催は中止をしたが、私立認可園からの出張プログラムは2拠点とも双方開催ができた。公立園とは別途違う形態で令和3年度に向けて企画を進めていくことになった。 ●これまでの施設間連携の中で、どろっぷサテイト近隣地区センターからの提案により産後直後の家庭に対する育児支援プログラム「あっぷっぷ」を年度内2回開催することができた。関心の高い支援関係者や先輩の子育て家庭の協力のもと開催。 ●今後は相互のボランティアを出会わせ、協働で自主的に運営していく道筋がたてられた。 ●産後間もない家庭が拠点以外の地域の社会資源に足を踏み入れるきっかけとなった。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●自立的な運営での継続を図ること ●他の施設連携プログラムによるトータルの連携事業としての成果効果測定 ●子育て支援プログラムに関わる多世代側にとっての有益性の可視化

次年度重点目標

令和3年度 重点目標①	一時預かり事業とファミサポ事業の充実
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●拠点多機能化で大事な親子が行きかうひろばの交流と一時預かりそして地域での預かり、この重層的な支援の拡がりによって子育て家庭にとってそれぞれの必要性に応じて柔軟に対応していく。 ●子育て家庭側だけでなく、預かりを通して家庭側への理解、関係性、愛着が深められる地域人材を増やしていくこと、この双方の丁寧なマッチングを深め拡げていくことで港北区における子育てしやすい環境づくりに繋げていくこと。 ●2つの機能を通じて行う研修事業を見直し、拠点活動以外でも活躍活動できる子育て支援関係者のすそ野を増やしていくことも目標とする。この目標達成にはつどいの広場事業含めて他、関係機関と協働で推進していく。

令和3年度 重点目標②	地域力向上のための人材づくり
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生活様式の一環で多くの子育て家庭の働き方が変化している。子ども、子育てを通じた地域のあり方に関心を寄せる層が増えてきていると感じている。この傾向にしっかりコミットし、関心事に伴走し、課題解決もしくはより良い子育て環境づくりの主体になっていくための場づくりを行う。その場を通じて、地域への関心度の高まり、また具体的にアクションに繋がった事例をとりまとめていく。 ●人口減となり、社会課題が深刻化する中、魅力ある区づくりのためにも若い子育て世代の地域への愛着、これからの未来を描く人材としてボランティア活動だけではない新しい地域活動への関わり方を提案していく。結果、まずはどろっぷおよびどろっぷサテライトでのボランティア登録率のアップや活動の見える化を試みる。 ●地域課題だけでなく、テーマ性のある課題についても小地域で語れる場づくり、当事者による当事者課題が存分に語れる機会の保障と、当事者だけに委ねない課題の共有機会の創出。さまざまセクターとの協働共創の視点をもった活動支援を心掛ける。